

挑む!

神戸市立須磨海浜水族園学芸員

中村 清美さん(39)



1977年、大阪府吹田市生まれ。農林水産省が所管する4年制の水産大学を卒業し、山口県下関市や長崎県の水族館で勤務。2010年から現職。

頭の中はスナメリでいっぱい

小型のイルカ、スナメリにほれ込んで20年近く。いま大阪湾でその姿を追いつける。勤めている神戸市立須磨海浜水族園では見学者の対応や教育活動に携わり、生き物に直接かかわっていないが、スナメリだけは別。見かけたという情報を足で集め、死骸を解剖し

て年齢や食べものを調べる。イルカやクジラに興味を抱いて水産大学校(山口県)に進んだ。漁船からスナメリを探す実習があったが、見つけれられない。背びれがないので、白っぽい背と白波の区別が難しい。悔しさを隠しきれず、「またおいで」と慰め

てくれた漁師のもとに通ううち、頭の中がスナメリでいっぱいになった。6年前に水族園に着任し、独自に大阪湾を調べ始めた。情報はあまりなく、国の全国調査の対象から省かれた海域だ。漁師や海を守る海上保安庁の職員を訪ねて歩いた。男だらけの世界で怖かったが、真っ黒に日焼けするとともに肝がすわった。500件以上の目撃情報を集約し、昨年は関西空港の近くで子育てする様子を朝日新聞、朝日放送との共同調査で突き止めた。スナメリは2年前、絶滅しそうな生物をまとめた大阪府のレッドリストに載った。「スナメリがいない海は生態系が壊れた海。人にとってもよくない」。危機感を募らせ、船での観察会などの啓発に力を入れる。

(文・小堀龍之 写真・伊藤菜々子)

◇ 「挑む！」では、関西を元気にしてくれる人たちを紹介します。

記者から

大都市大阪の眼前に広がる海のかげがえのなさをスナメリを通して気づかせてくれる。